今大会を顧みて

日本教職員バドミントン連盟
副会長　稲石　一雄

2度目の長崎県開催でした。円滑に運営していただきましたことに感謝します。今回は長崎市内で行われましたが、原爆の日と精霊流しにはさまれて日程調整が大変だったことは想像に難くありません。また最終日に台風が接近し、棄権をして帰路に就く選手がいるなど、開催地としても悩ましいことがたくさんあったことでしょう。大変ご苦労様でした。本部宿舎から会場までの移動も大変スムーズで、ずいぶん楽でした。会場ではオリンピックイベントのシャトルアートで、ミライトワが描かれていました。今回は各種目で新チャンピオンが誕生しました。個人戦22種目中（55歳以上女子単複以外）で連覇は4種目でした。この1,2年で年代を上げてくる選手が増えました。実績のある選手が、年代を上げてまた成績を残しています。成壮年男子団体で長崎県が優勝したことは印象的でした。

今回、新種目としてハイパーエイジ男子団体、55歳以上女子単複を実施しました。パイパーエイジ男子団体は、合算年齢による年代区分という教職員大会では初めての試みです。参加者の年齢が相対的に上がっている現状で、従来の年代区分では団体を組みにくい県があるという声がありました。そこでペアの組み方に幅を持たせるようにしました。実際にふたを開けてみると、予想以上のエントリーがありました。かつて一般や成壮年で活躍した顔も多く見られ、和やかな中に勝利にかける思いをみなぎらせた戦いが繰り広げられました。ただし試合のメンバーを見てみると若い人が少ない感じです。印象としては成壮年の年齢層を一つ上にあげたようなメンバー構成が多かったようです。55歳以上女子については今後の参加者増加を期待します。

サービスのルール変更が行われての大会でしたが、サービスについての混乱はほとんど見られなかったようです。会場ではインターハイで使用された器具が運び込まれて、試験的に使われていました。

今回の会場はエアコンが効いていて快適でした。サブアリーナは多少風の影響があったようですが、それでも暑さ対策としてエアコンが必要だと思います。毎年のように暑さが厳しくなっています。今後は異常気象とは言わなくなるかもしれません。夏の大会ではエアコンがないと大会が成り立たない状況になっています。各開催地はエアコン代に頭を痛めています。今後はエアコン使用料を上乗せした参加料設定をしなければいけない状況になるかもしれません。

最後に大会を運営していただいた長崎県の関係者の皆様に感謝申し上げます。